

■ 会社概要

1922年に鍛冶職人であった川田忠太郎により、富山県で川田鐵工所として創業しました。

創業以来の金属加工技術、その周辺技術から発展させた橋梁や建築鉄骨などの事業、そしてこれらの製品やサービスから派生した建築事業を展開、推進し、北陸地方などそれぞれの地域で、鋼構造物を柱とした独自の技術で社会に貢献する企業を目指しています。

また、川田テクノロジーズ株式会社（東証一部上場）を持株会社とするKTI川田グループの基幹事業会社として、2022年には創業100周年を迎えます。



■ 研究会への参加動機



川田技報 Vol.35 より

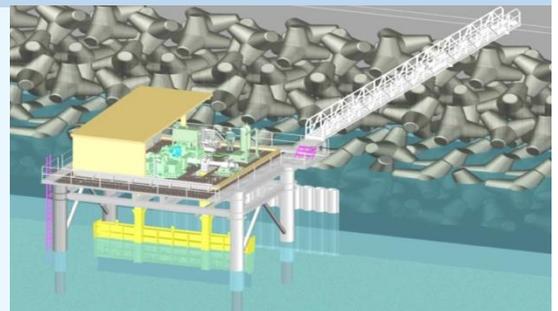
川田工業は得意とする鋼構造物の製作技術を利用し、かねてより漁港や港湾に設置される海洋ジャケット（鋼構造部材で構成される栈橋）を製作してきました。この研究会に参加するきっかけは、東京大学生産技術研究所と参画する企業の方が当グループ発刊の「川田技報」に書かれた海洋ジャケット構造物の記事をご覧になって、声をかけていただいたことが始まりでした。「皆さんも地球防衛軍に参加しませんか？」と。

川田工業では地熱や太陽光などの再生可能エネルギーに関する取組みを進めており、地球温暖化対策への貢献促進に役立つこの研究会に参加することとなりました。

■ 研究会に参加して感じたこと、学んだこと

これまでの主な仕事は鋼構造物（橋梁、建築ビル鉄骨）の設計・製作・架設だったことから、電力事業に関する情報はどれも初めての内容ばかりでした。東京大学の先生方をはじめ、研究会のメンバーに「発電」に関する情報を教えてもらいながら、事業を進めています。

平塚の海を起点として、全国の漁港や港湾へ波力発電所が広がることを期待しています。



■ 研究会で担ったパート



川田工業では発電ユニットの土台となる鋼構造ジャケット部を製作しました。また、現地での据付を簡単に終えるため、発電ユニットの搭載を含めた全ての部材組立てを当社の四国工場で行いました。

次に計画されている福島県浪江波力発電所ではこの経験をもとに、さらなる進化を目指して、よりよい発電所が効率的に製作できるよう頑張ります。

■ 就職や進学を考える人へのメッセージ

～大きな橋をつくる。街のシンボルとなる建物をつくる。川田工業。それは、心、奮える場所。～

私たち川田工業は、2022年には創業100周年を迎える、業界トップクラスの橋梁メーカーです。

◆技術の川田◆

経営理念は、「安心で快適な生活環境の創造」。培われた実績と技術を磨き続けて社会に貢献すること。これが当社の使命と考えています。また、当社には「独創自立」という言葉が古くからあります。オリジナリティーを發揮し(=「独創」、自らの存在意義を確立する(=「自立」)。この独創自立の精神が当社のポリシーです。

◆人の川田◆

当社は長きに渡り人材重視を貫いています。上司と部下、先輩と後輩が自由闊達^{かふたつ}に意見を言い合える風通しの良い職場環境です。社員一人ひとりの働きがい大切に、「働く環境」「教育・研修制度」「福利厚生」を整えています。これからも私たちは、技術を磨き、仲間と共に支え合い、挑戦し続けていきます。

「チームKAWADA」の一員として、”心奮える”挑戦の舞台で、私たちと一緒に未来を描きませんか？

※川田工業の「新卒採用特設サイト」もぜひご覧ください。

【URL】 <https://www.kawada.co.jp/recruit/> 【QRコード】



■ 会社のPR

～あの有名な構造物も私たちの製品です～



私たちは地域のランドマークとなるような建造物を数多く施工しています。

例えば、橋梁分野では東京ゲートブリッジやレインボーブリッジなどの日本を代表する橋梁建設に参画、鉄構分野では首都圏や中京圏、関西圏などの超高層ビルの鉄骨、国内各地にあるドーム球場やスタジアムなどの大規模構造物の製作・建方工事を行っています。

建築分野では、独自の「システム建築」の技術で多くの工場や物流センターなども手掛けています。川田工業では、これら高い精度が要求される建造物で、世界に誇れる高い技術力と品質で、後世に残る数多くのプロジェクトの一翼を担い続けています。

また、さらに KTI 川田グループは、航空、ICT、ロボティクスなどの事業分野でも社会インフラを支えています。

■ 技術情報のリンク



kawada_officiall



@KTI_official

川田テクノロジーズ（持株会社）公式アカウントです。橋梁、鉄構、建築などの事業を展開する川田工業をはじめ、当グループの情報を配信しています。

KAWADA INDUSTRIES, INC.